

## 2014 年度 第 4 回 断層問題に関する理工学合同委員会・幹事会 議事録

日時：平成 26 年 12 月 8 日（月） 15:00～17:00

場所：JGS 会館 3 階 小会議室

出席：國生剛治，大塚康範，堀宗朗，末岡徹，谷和夫，藤井幸泰（欠席者：なし）

オブザーバー：東畑郁生（JGS 会長）

配布資料：

資料 4-1：第 3 回幹事会（2014/9/8） 議事録（案）

資料 4-2：下打合せ（2014/11/13） 議事メモ

資料 4-3：執筆方針に関するメモ

資料 4-4：課題に対するメモ

資料 4-5：出版社に関する情報

資料 4-6：大塚副委員長からのメモ

資料 4-7：第 50 回地盤工学研究発表会での DS 調査の回答

資料 4-8：予算（案）に関するメモ

資料 4-9：土木学会「断層変位評価に関するシンポジウム」の開催計画書

資料 4-10：日本原子力学会「断層の活動性と工学的なリスク評価」調査専門委員会 設立申請書

資料 4-11：日本地震工学会から活動期間と成果報告の問合せと対応

資料 4-12：平塚市の「防災講演会」の資料

資料 4-13：日本応用地質学会からの第 1 章の目次構成案

議事：

### 1. 前回（第 3 回，2014/9/8）議事録の確認

資料 4-1 を承認した。さらに，資料 4-2 により，下打合せ（2014/11/13）を実施した旨が紹介された。

### 2. 書籍の執筆方針の検討

谷幹事長より、資料 4-3, 4 に基づいて、これまでの議論のまとめと課題に対するメモが説明された。藤井幹事より、資料 4-5, 6, 13 に基づいて、出版社に関する情報と日本応用地質学会による第 1 章の構成案が説明された。

#### (1) 執筆者の候補

- 各章について以下の候補者を選定した。

章	内容	氏名	所属	依頼
0	前書き	* * * *	* * * *	—
1	断層とは， 地震と活断層	* * * *	* * * *	大塚
		* * * *	* * * *	大塚
		* * * *	* * * *	大塚
2	変動地形学調査 ～トレンチ調査	* * * *	* * * *	大塚
	物理探査～実験～数値解析	* * * *	* * * *	末岡 谷
3	断層変位による被害	* * * *	* * * *	谷
		* * * *	* * * *	谷
4	地震予知，変位予測	* * * *	* * * *	國生

		* * * *	* * * *	谷
5	リスク評価	* * * *	* * * *	谷
	確率論的な断層変位評価	* * * *	* * * *	谷
	断層変位対策	* * * *	* * * *	—
6	構造物の安全性評価	* * * *	* * * *	堀
	～設計の考え方	* * * *	* * * *	堀

- 1章と2章の前半について、5名の候補者及び分担の範囲を、大塚副委員長と藤井幹事が再検討することとした。
  - 6章について、「断層問題に関する提言」をまとめることは、各学会の見解の調整を要することから困難である。よって、内容を「構造物の安全性評価や設計の考え方」に改め、執筆者の個人的な意見を幹事団で編集するものとする。
  - 候補者へのコンタクト及び依頼は、出版社との相談の後とする。
  - 表紙・前書き・目次に5頁、本文に225-300頁（15名@15-20頁）、インタビュー記事に20頁で、合計250-325頁となる。
- (2) 思想・ストーリー
- 谷幹事長の個人的な見解であるが、原則、方向性は確認された。ただし、【原子力規制】については、偏見が強いとの意見があった。具体的な内容・表現について、今後も検討を続けることとした。
- (3) インタビュー記事
- 谷幹事長より、2名のサイエンス・ライターの候補者が執筆した書籍が紹介された。インタビューの内容を解釈・分析する能力を有するので、ライターの個人的な見解も期待できる。ただし、その見解を編集方針と調和させることを事前に確認する必要がある。
  - 堀副委員長より、インタビューの内容を整理して列記する能力を有する候補者が紹介された。
  - インタビューの内容とライターの人選について、今後も検討を続けることとした。
- (4) コラム
- 本文の内容からやや逸れた小話的な内容（余談）を各章の末尾に挿入する。
  - テーマとして、活断層と文学、映画、神話、滝、トンネル等が挙げられた。
  - テーマと執筆候補者について、今後も検討を続けることとした。
- (5) 出版社
- 講談社、岩波書店、中央公論新社の3社に、執筆案を提示することとした。
- (6) タイトル
- 第1候補「断層の科学」について、異論はなかった。
  - サブタイトルも含めて、今後も検討を続けることとした。
- (7) 著作権と原稿料
- 出版社とのやり取りを通じて決定することとした。

### 3. 合同委員会としての活動

谷幹事長より、資料4-7に基づいて、(公社)地盤工学会の第50回地盤工学研究発表会(2015/9/1-3, 札幌市)のDS(ディスカッション・セッション)に係るアンケートへの回答が説明された。

#### (1) 第50回地盤工学研究発表会のDSの内容

- 市民向けセッションとし、形式はパネル・ディスカッションとする。パネリストは執筆者とサイエンス・ライターとする。一般発表は募集しない。
- 参加者を増やすため、HP掲載、3学会のメール案内、マスコミへの投げ入れ、ちらし配布等を検討することとした。

(2) その他の活動

- 書籍の販売促進も兼ねて、委員会の活動内容について各学会の会誌への記事掲載を検討することとした。
- 各学会の研究集会でも、類似のセッション主催を検討することとした。

7. その他

(1) 予算

谷幹事長より、資料 4-8 に基づいて、今年度の執行状況と来年度の予算（案）が説明された。

- 今年度の余剰金（推定で約 35 万円）は地盤工学会に収められ、日本地震工学会と日本応用地質学会には返金されない。次年度以降に赤字が出た場合には、地盤工学会の予備費で賄うこととした。
- 来年度の出資金額は、地盤工学会は 26 万円、日本地震工学会と日本応用地質学会は 10 万円とした。

(2) 今後の予定

- 第 5 回の幹事会は、3 月 2 日（月）9:30-12:00 に、JGS 会館の 3 階小会議室で開催する。
- 12 月中に議事録及び編集方針（案）を確認する。
- 年明けに、出版社にコンタクトを取る。その後に、執筆者に依頼をする。

(3) 情報提供

谷幹事長より、資料 4-9, 10, 11 に基づいて、以下の報告があった。

- 2015 年 7 月 3 日（金）に（公社）土木学会で「断層変位評価に関するシンポジウム」が開催される。
- 日本原子力学会に「断層の活動性と工学的なリスク評価」調査専門委員会（主査：奈良林直（北大・教授））の活動が開始した。
- 日本地震工学会からの活動期間と成果報告に関する問い合わせに対応した。
- 各学会の HP に、合同委員会のメンバーと議事録の掲載を依頼した。

末岡アドバイザーより、資料 4-12 に基づいて、以下の報告があった。

- 12 月 6 日（土）に平塚市の防災講演会が開催された。
- \*\*\*\*（\*\*\*\*）の活断層に係る講演は、理学の分野における個人的な見解に大きな幅があることを感じさせる内容だった。

以上（文責：谷 和夫）